

「情報活用授業コンクール」Q&A…

どんな実践を応募すればいいの？

- 過去3年以内の実践であればOK！
- 単一・複数・総合的な学習の時間・教科横断的な実践、特別活動などふだんの実践をまとめてみてください

授業実践の応募制限はあるの？

- 複数の実践応募もOK！ただし、各実践ごとに応募してください
- 優秀な実践を多数応募された学校には、「情報活用推進校」受賞のチャンスも！！

図書資料だけ活用した授業実践でもいいの？

- 図書資料だけでもOK！
- 図書資料はもちろん、新聞・実物資料・映像資料・ネット資料など学校図書館のさまざまな資料を目的・ねらいに合わせて効果的に活用しましょう

誰が応募するの？

- 司書教諭、学校司書、教科担当教諭、担任の先生、どなたが中心となって応募してもOK！
- 学校全体で情報活用に取り組んだ校長（学校図書館長）からの応募も

授業実践でなくてもいいの？

- ねらいに対して支援・指導がある活動、教育活動全般に関わる活動が対象なので、授業に限りません
- 図書委員会で行った読書祭りやビブリオバトル大会の応募も

これまでどんな実践の応募があった？

- 生き物について調べ学習を行い、クラスの「生き物図鑑」をまとめる（小学・総合的な学習の時間）
- 「まちづくり」をテーマに資料で調べたり、インタビューをしたりして、新聞にまとめる（小学・総合的な学習の時間）
- 伝統工芸品について多様な情報源で調べ、PowerPointでまとめて発表（小学・国語）
- 特別支援学級で絵本を使って世界の国を調べ、ウェビングマップに（中学・国語・社会）
- 日常生活の統計データを集めてグラフを作成（中学・数学）
- 論文執筆のための情報検索や引用・参考文献の書き方、各種データベースやインターネット検索について段階的に指導（高校・総合的な学習）
- 「災害」をテーマに図書資料、データベースのほか、特に新聞を活用して情報を整理し・分析してまとめ、プレゼン（高校・理科）

学校図書館を活用した

学習活動をまとめよう！

第5回

主催：公益社団法人全国学校図書館協議会
協賛：キハラ株式会社 後援：文部科学省ほか



情報活用授業 コンクール

応募期間 2025年2月1日～4月5日（当日消印有効）

第5回コンクール応募要項（抜粋）

趣旨 学習指導要領に「学校図書館を計画的に活用し授業改善に生かす」と明記されているように、学校図書館は教育のインフラとして、児童生徒の学習活動を支え、情報活用能力と読む力を育みます。児童生徒は、印刷やデジタル等の多様な資料やICTを活用して、情報活用のプロセスを経験し、情報活用能力を身に付けます。そこで、情報活用の実践を広げるために、「情報活用授業コンクール」を実施します。

主催 公益社団法人全国学校図書館協議会

協賛 キハラ株式会社

後援 文部科学省 一般社団法人日本教育情報化振興会

一般社団法人日本新聞協会 公益財団法人文字・活字文化推進機構

応募資格 国公私立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校に勤務する教職員（教員、司書教諭、学校司書等）。

対象とする実践 過去3年間以内の学習活動の実践。教科・領域は、単一・複数・総合的な学習の時間・教科横断的なもの、特別活動などいずれでも結構です。

*1実践につき1件の応募とします。複数の実践を応募する場合は、それぞれについて応募書類A～Dを提出してください。

*応募数の制限はありません。

評価の観点

- ①学習のねらい、指導計画が適切であるか
- ②学習の展開に即した資料・情報の活用であったか
- ③成果・課題

応募書類 A. 応募票(1)(2) B. 実践報告書<8枚以内> C. 使用した資料・情報のリスト
D. 実践を説明する資料（ワークシートや写真等20点まで）※各書式はサイトよりダウンロード可

表彰

- 優秀賞：各割合せて上位10点程度。受賞者には、賞状と副賞を贈呈。
- キハラ賞：優秀賞のうち、特に優れた実践に対し贈呈。
- 情報活用推進校：優秀な実践を多数応募された学校を表彰。受賞校には、賞状と副賞を贈呈。
- 奨励賞：上記以外に、今後の活動が期待される実践を表彰。賞状を贈呈。

応募書類【B. 授業実践報告書】に記載する内容との書き方例

「学校図書館を活用した授業実践をまとめよう！～情報活用授業コンクールに応募しよう」
 (『学校図書館』2022年9月号より) を加筆修正
 ※SLA サイトにも掲載

！ 評価ポイント①

学習のねらい、指導計画が適切であるか

！ 評価ポイント②

学習展開に即した資料・情報の活用であったか

！ 評価ポイント③

ねらいに即した成果・課題がまとめられているか

実践報告書 (*5)

(1) 指導計画…

- ① 指定のねらい、理由 (*6)
 ○ 「副的」の内容をもう一度読み込んで自分なりに考える。
 ○ 全国紙、地方紙、業界紙など、立場が違えば評価や書き方も変わること注目し、情報の意義や価値は多面的であることを考える。
 ② 児童生徒の実態 (*7)

(2) 指導計画【全3時間】 (*8)

- 平家物語の学習の後、3時間扱いで設定。
 第1時 号外の構成や見出しなど、新聞記者からのレクチャー内容を指導。
 全国紙・地方紙・業界紙など立場を決めて、作成する新聞の名前を考える。
 第2時 資料を参考に下書きをする (記事を考える。写真のかわりに絵を描く)。
 第3時 グループ内で意見交換、修正して清書。 → 後日掲示して発表。
 ④ 事前打ち合わせ (*9)

⑤ 資料・情報の選択・収集など (*10)

- 号外の作り方など説明、フォーマットの提供、新聞社との橋渡し、いろいろな地方紙・業界紙の展示や、題字 (新聞の名前) の紹介を提案。
 司書教諭と学校司書…授業者の意図や流れ、必要とする資料を確認。
 学校司書と授業者…用意した資料・情報を確認し、提供のタイミングを相談。
 ⑤ 資料・情報の選択・収集など (*10)
 学校司書…新聞号外の人物、Webサイトの紹介 (新聞社のサイト内の号外、NIEのサイトに
 おける号外説明、当時の社会や歴史的人物の肖像画などのサイト)。
 司書教諭…新聞記者からのレクチャー内容を印刷して配布、号外フォーマットの作成、新聞協会加盟の
 新聞社…一覧を題字の参考として提示。

(2) 実践記録… (*11)

- 第1時…初めに以下の説明をした。
 ○ 実際の号外を集めておき提示。1人1台端末を使いWebサイトで各新聞社の号外やNIEのサイトでの
 号外の説明も参考に見せた。
 ○ 号外の作り方は、司書教諭が仲介し新聞記者のレクチャーをまとめたものを配布。
 ○ 5W1Hの書き方や見出しの表現の工夫も指導。
 ○ 参考資料を見て「○○新聞」以外の名前も多しことを確認、新聞名を考えさせる。
 第2時…グループでの意見交換では、アドバイスのポイントを示しておいた。
 第3時…完成後、作品を廊下に掲示し、付箋で感想交換を行った。
 → 生徒作品は最後に参考資料として添付。

(3) 成果・課題… (*12)

- 作品を作るために教科書やこの時代の資料を何度も読み直したことで、平家物語の理解も深まった。
 ○ 多様な資料を使い、調べたりまとめたたりすることができた。
 ○ 多脚、源氏朝、与一の放鯉の地方紙、瀬戸内海の漁協の業界紙、弓の製作会社などいろいろな立場の
 新聞を作成したので、それを見せ合うことで立場が変われば記事内容が変わることを実感し、情報に向
 き合う姿勢について考えることができた。
 ○ また、作品を見た社会科教員が歴史新聞を夏休みの課題に出すなど、他教科への広がりも生まれた。

① その他 (*13)

- 実践報告を補足することを記述する。応募者の立場によっても記述内容は多岐にわたる。
 ○ 児童生徒の作品をデジタル保存し、タブレット端末で発表・感想交換をすることもできる。また保存する
 ことで次年度にも役立てることができ (個人情報や著作権等への配慮が必要)。
 ○ 実践を振り返り、自校所蔵の資料の鮮度や不足等の現状・課題に気づく場合も多い。

● お問い合わせは、
 全国学校図書館協議会研究調査部へ kenkyu@j-sla.or.jp

● 応募要項、応募書類ダウンロード、応募書類の書き方など詳しくは、
 全国学校図書館協議会 Web サイトへ
<https://www.j-sla.or.jp/contest/jouhoukatsuyouguyou-top.html>



* 印の
 アドバイス・ポイント
 を参考に、まとめてみ
 ましょう！

【キラ賞】
 キハラ株式会社 特製
 オリジナルブックトラック

※第2回コンクールの例



(*5) ● 「実践報告書」は8ページ以内。実践したことを十分に説明できる枚数でまとめよう。
 ● 必要に応じて写真やワークシートなどを入れることもできる。8ページに入らない場合は、添付資料 (20点以内) とする。

(*6) ● ねらいが明確だと、それに対応して指導の手立てがきめ細かく検討・実施される。
 ● 成果と課題が、ねらいに対応して記述されているか確認しよう。

(*7) ● 児童生徒の実態が明確に把握されていると、指導の手立てがきめ細かく検討・実施できる。
 ● 成果と課題が、ねらいや児童生徒の実態に対応して記述されているか確認しよう。

(*8) ● 新聞社や博物館など、外部機関との連携も視野に入れておくことよ。

(*9) ● 事前打ち合わせは、誰と、いつ、何について打ち合わせをしたかを記述する。
 ● 資料や情報の選択・収集は、実物や印刷体の図書・雑誌・新聞等、デジタル体の資料やデータベースな
 ど、多様な種類、多様なメディアを念頭に置いて、ねらいをよく確認しながら相談しよう。

(*10) ● 図書資料だけでなく、新聞も学校図書館の資料である。授業展開の可能性を視野に入れて、日ごろから新
 聞や号外を資料として保存しておくことも必要である。新聞社やNIE推進協議会に入手法法の相談もでき
 るだろう。
 ● 複数の情報源を使う場合が多いが、授業のねらいによっては、例えばインタビューを行ったり、印刷体の
 絵本のみを使ったりする場面もあることに留意しよう。

(*11) ● 資料や児童生徒の活動などの写真があると授業の流れがよく見える。
 ● 配布資料や号外フォーマットなどのワークシート等も資料として添付するとわかりやすい。
 ● 実践について、次のような観点にも留意して記述してみよう。
 ○ 学習のねらい、指導計画が適切であるか
 ○ 学習の展開に即した資料・情報の活用であったか
 ○ 成果・課題
 ● 外部の方からのレクチャーは、ICT担当との協働で、オンラインで行うなど、指導方法もICT利用を含めて
 多様化している。

(*12) ● 児童生徒の事前事後の変化がわかるように、感想やアンケート結果などもあるとよい。

(*13) ● 実践報告を補足することを記述する。応募者の立場によっても記述内容は多岐にわたる。
 ● 児童生徒の作品をデジタル保存し、タブレット端末で発表・感想交換をすることもできる。また保存する
 ことで次年度にも役立てることができ (個人情報や著作権等への配慮が必要)。
 ● 実践を振り返り、自校所蔵の資料の鮮度や不足等の現状・課題に気づく場合も多い。